

実践例① 小3 社会科学習指導案（略案）

場 所：垂井町立府中小学校 プレールーム
 授業者：岐阜県図書館 松尾 國雄

- 1 単元名「学校のまわりのようす」（全24時間）
- 2 単元のねらい（つけたい力）

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
学校のまわりの特色や土地利用の様子について関心をもち、地域の特色やよさについて、進んで調べたり、まとめようとする。	学校のまわりの様子について調べたことをもとにして、地域の特色について考えることができる。（どこに・なにが・なぜ）	学校のまわりの様子について調べたことをもとにして、絵地図や白地図にまとめ、気付いたことを表現することができる。	学校のまわりを調べたり、白地図等にまとめたりすることを通して、地域の様子は場所によって違いがあることを理解することができる。

3 本時の位置 19・20 / 24

4 本時のねらい

地図記号を使っているのは、「かんたん、だれもが、わかりやすい（一枚に表示しやすい）」からであり、その記号を活用したり、工夫したりして、地図をつくりあげることができる。

5 本時の展開

学習活動	指導上の留意点			
<p>1 “たんけん”で見つけた〇〇が、全国どこでも同じ地図記号で表されている事実をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の北には、〇〇があったよ。南は、▲▲。 ・〇〇は、“しるし”で表されている。 ・垂井だけでなく、岐阜県内や北海道、沖縄県…どこでも同じ“記号（しるし）”だ。 <p>【課題】 〇〇が、どこの地図でも同じ“記号”で表されているのはなぜだろう</p> <p>2 自分の考えをもち、交流する</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> かんたん ・絵は時間がかかる。 ・わたしでも描ける。 </td> <td style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> だれもが ・3年生～お年寄りまで ・自由に描き表すこともできる。 </td> <td style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> わかりやすい ・一目で分かる。 ・たくさん描ける。 ・一枚に描ける </td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">↓ 地図記号は便利だ。必要なんだ。</p> <p>3 道路のみを記入した略地図をもとにして、地図記号を記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・△△は、この記号だ。 ・この表にないから、こんな記号をつけて表してみたよ。 ・□□の地図の完成。これで様子が分かりやすくなったよ。 <p>4 目的によって様々な地図や地図記号があることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな地図や地図記号があるんだ。 ・昔から変わってきている記号もあるんだね。 ・それぞれちゃんと意味があって、おもしろいね。 ・目的によって、いろいろな工夫がしてある。すごいな。 	かんたん ・絵は時間がかかる。 ・わたしでも描ける。	だれもが ・3年生～お年寄りまで ・自由に描き表すこともできる。	わかりやすい ・一目で分かる。 ・たくさん描ける。 ・一枚に描ける	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの見学で見つけた建物、店、寺、病院等を四方位、ごとに確認する。【白地図】 ・数カ所の地図を提示し、〇〇が同じ表現となっていることをおさね、「ちがう場所なんだよ…」等と問い、課題化を図る。【国土地理院発行地図】 ・子どもの考えを三つの窓で聞き分けたり、絵と記号の比較を提示したりして、その利便性に気づくことができるようにする。 ・共通の記号以外で表現してもよいことをおさえる。（別表として示せば） ・停滞が生じている子どもには、方位や主な建物等が想起できるように、絵地図や写真等を提示する。 ・地図記号を自分なりに考えて描いている子のよさを広げる。 ・“目的の違い”によって表し方が違うことをおさえる。【分布図センター所蔵地図等】
かんたん ・絵は時間がかかる。 ・わたしでも描ける。	だれもが ・3年生～お年寄りまで ・自由に描き表すこともできる。	わかりやすい ・一目で分かる。 ・たくさん描ける。 ・一枚に描ける		

6 評価規準（本時の重点 資料活用の技能・表現）

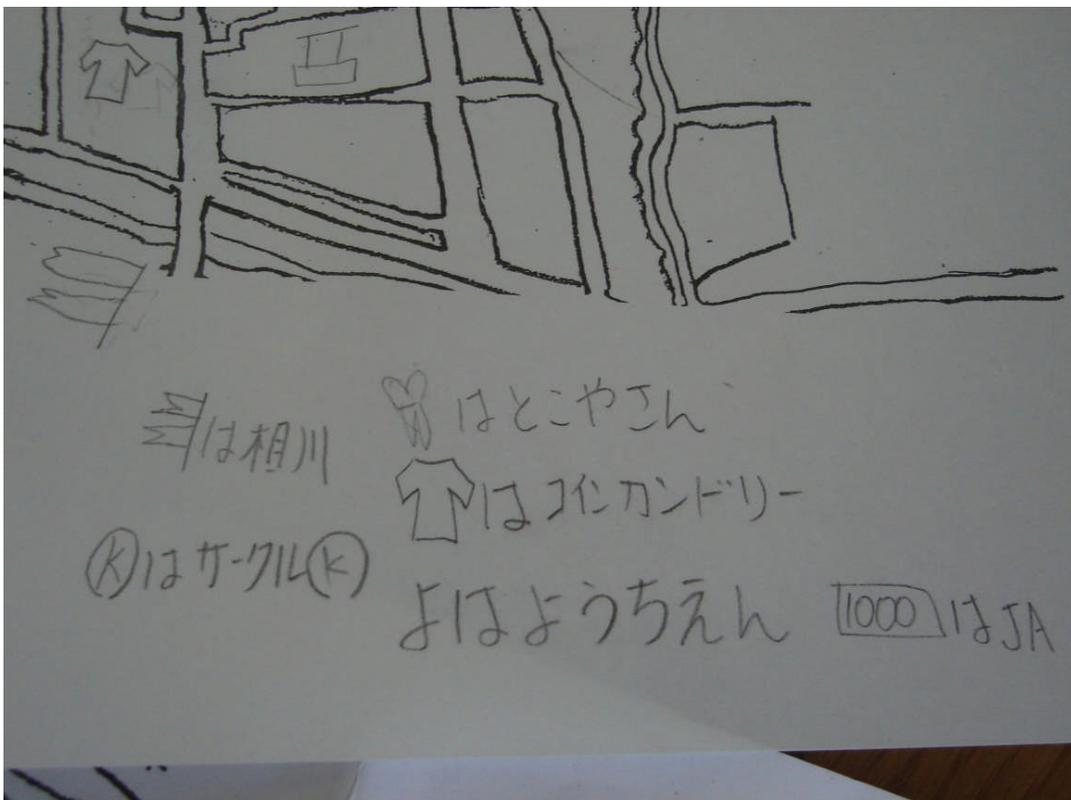
地図記号の必要性がわかり、正しく選択したり、自分で考えた記号を記入したりして地図に表すことができたか。

実践例① 小3 授業の様子



この建物はどんな記号で表されているかな。

同じだとわかりやすいから。



表にないから、こんな記号を考えて白地図に描いたよ。

小3の実践例① 個の変容 (例: 3年 Aさん)

◇授業前までの実態 (見学後に作成した白地図)



- ・見学時に見つけた建物の名前を記入することはできるが、部分的な表現であった。
- ・文(学校)と卍(寺)の地図記号は理解できている。
- ・方位や位置については、ある程度理解できている。

◇授業でみられた姿 (“記号” に対する話し合いの中で)

A: 絵を大きく詳しく描いて貼った方が、府中郵便局だと分かりやすい。地図記号のいいところもあるけど、私は大きく描いた方がいい。

※ 写實的に地図を表したい。そのためには、見たままを大きく詳しく描き入れるとよいという考え方。

C: あまり大きくしすぎると、そのウラのが見えなくなってしまうよ。

— 略 —

※教師の指導【“限られた紙面範囲” “地図記号の大きさ” に対する気づきを促す指導】

T: Cさんの考えは、この中にもっといろいろなことを描きたいときに、一つのモノだけを余り大きく描いちゃうと、他の見つけたモノが、かくれて描けなくなっちゃうという考えだよ。Aさん、どうかな。

A: 私は詳しく描いたほうがもっとよく分かると思う。でも、大きすぎるのがいけないことは分かるよ・・・。

※ 地図記号に対する否定的な考えではなく、“より写實的に・より具体的に” という考えである。限られた紙面に対するマーク(地図記号)の大きさについて気づきが見られた。

◇授業後の実態 (授業で作成した白地図)



- ・前時までの白地図に比べて、習得した地図記号を多く、正しく活用することができるようになった。

- ・Aさん自身が考えた記号を表示し、白地図内に書き込むことができるようになった。

※さらに周囲の情報を正しく書き込んだり、土地の高低等を記したりできるとよい。

実践例② 小4 (略案)

場 所：多治見市立滝呂小学校 4年生各学級(3クラス)
 授業者：世界分布図センター 松尾 國雄

- 1 小単元名「岐阜県の様子」(全20時間)
- 2 単元のねらい(つきたい力)

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
47都道府県の名称と位置や県の地形、産業、県内の特色ある地域などの様子に関心を持ち、それを意欲的に調べることを通して、地域社会の一員としての自覚をもつとともに、地域社会に対する誇りと愛情をもとうとする。	47都道府県の名称と位置や県の地形、産業、県内の特色ある地域などの様子から学習の課題を見いだして追究・解決し、県の特色や地域の人々の生活や産業と自然環境及び国内の他地域や外国との関連を考え、適切に判断する。	47都道府県の名称と位置や、県の地形、産業、県内の特色ある地域などの様子を、資料を活用したり白地図にまとめたりして調べるとともに、調べた過程や結果を工夫して表現する。	47都道府県の名称と位置や、我が国における自分たちの県の地理的位置、県全体の地形や主要な産業の概要、特色ある地域の人々の生活、国内の他地域や外国とのかかわり等について具体的に理解している。

- 3 本時の位置 2 / 20
- 4 本時のねらい

岐阜県が、「飛山濃水」といわれるのは、飛騨地方に高い山地・美濃地方に川が集まる平野が広がっている地形だからであることが分かる。

- 5 本時の展開

学習活動	指導上の留意点
<ol style="list-style-type: none"> 1 岐阜県の位置が記されていない日本白地図に県の形を描き込み、地理的位置について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・きっとこのあたりだ。 ・本州の真ん中ぐらいにあるね。 ・周りには、愛知…7つの県がある。 ・海がない県だ。 2 岐阜県が「飛山濃水」といわれていることについて課題意識をもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットや副読本などに、岐阜県について「飛山濃水」という言葉が多く使われている。なぜかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【課題】岐阜県が、「飛山濃水」といわれるのはなぜだろう。</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> 3 土地高低図・土地利用図・河川地図等をもとに考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・飛騨地方の方は、土地が高く、美濃地方の方は、土地が低くて海とかわらないほどの所もある。 ・美濃地方(海津市)に川が集まってきている。 ・南に市街地が多い。 ・南に行くほど、低い土地なんだ。 ・県内の土地の様子から、「飛山濃水」とよばれているんだ。 4 “飛山濃水”のように岐阜県を表す短いコトバを一人一人で考える。(位置や土地の様子から) <ul style="list-style-type: none"> ・本州まんなか。 ・7つの県に囲まれる。 ・森林いっぱい田畑ちよっと ・川はあるが、海がない。 ・土地は北高南低。 … 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習をもとに、特に本州や琵琶湖を押さえ、地理的位置をとらえることができるようにする。 【分布図センター所蔵地図等】 ・副読本やパンフレット等の表示を提示して、課題意識を高めることができるようにする。 ・地形を視点として、土地高低図・土地利用図・河川地図等を提示する。 【分布図センター所蔵地図等】 ・停滞が生じている子どもには、飛騨地方・美濃地方ごとに“土地の高さ”等について考えるとよいことを押さえる。 ・立体地図に触って、土地の高低が実感できるようにする。 【分布図センター所蔵立体地図】 ・位置や地形、河川などを視点にして、自分なりに考えて、岐阜県の様子を短い言葉で表現できている子のよさを広げる。

- 6 評価規準(本時の重点 資料活用の技能・表現)

岐阜県の地理的位置や地形の様子について調べたことを、文章等にまとめることができたか。

実践例② 小4 授業の様子



「岐阜県は、あのあたり。」



「ここに川が集まってきているよ。」



「ざらざらしているところが土地の高いところ…山だ。」



「飛騨地方には何がありますか？」

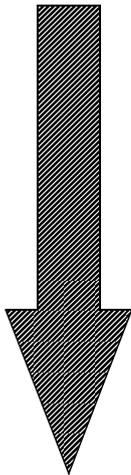
実践例② 小4 個の変容 (例: 4年 Yさん)

◇授業当初の実態

T: 岐阜県の地形(地表の様子)について知っていることを発表しましょう。

Y: 山があると思うけど…。あとは分からない。

・山に対する認識はあるが、その具体や平野のこと等についてさらに理解できるとよい。



◇授業でみられた姿(“飛山濃水”といわれる地形を追究する過程で)

※教師の指導【山の高さや川に着目させる指導】

T: “飛”は飛騨地方、“濃”は美濃地方をさしているんじゃないかということに気付けたんだね。じゃあ、この資料(ランドサット資料)を見て。地方のまとまりごとにどんな様子になっているかをじっくり見てごらん。そうすれば“山”“水”の意味も分かるよ。

Y: 飛騨地方・美濃地方の区分図とランドサット資料を見比べながら読み取りをはじめます。

◇追究後の実態(まとめのプリント記述から)

(わかった事)

飛だ地方は山が多くて美濃地方は川が多いことがわかりました。飛山濃水は、飛だの飛と山が多いから次に山。濃は美濃の濃。美濃は川が多いから水ということがわかりました。平らな土地で、三つの川があることもわかりました。

(もっと学習したいこと)

飛だ地方は山ばかりで、川はちょこっとしかないのか。あるのかないのかをもっと知りたいです。美濃地方は、川はどれぐらいあるのかをくわしく知りたいです。

・飛山濃水をキーワードとして、地形図から読み取ったことをもとにその意味をとらえることができた。

※岐阜県の地形について、より理解をふかめるために、ランドサット資料内にある標高や河川の方向等の事実に着目し、文章にまとめることができるとさらによい。

実践例③ 小5 社会科学学習指導案（略案）

場 所：八百津町立福地・潮見小学校 5・6年学級
 授業者：岐阜県図書館 松尾 國雄

- 1 小単元名「世界の中の日本」（全3時間）
- 2 単元のねらい（つきたい力）

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
世界の主な大陸や海洋、わが国の位置と領土等に関心を持ち、その様子について、進んで調べたり、まとめようとする。	世界の様子について調べたことをもとにして、わが国の位置と領土について考え、領土問題に気づくことができる。	世界の様子や日本の位置と領土等について資料等を活用して調べたことを白地図にまとめて表現することができる。	世界地図を調べたり、白地図等にまとめたりすることを通して、世界の中の日本の位置と領土等を理解することができる。

- 3 本時の位置 2 / 3
- 4 本時のねらい

世界の中の日本の位置と領土（含む領海・公海）が分かり、現在も続く領土（国境）問題に対して関心を高めることができる。

- 5 本時の展開

学習活動	指導上の留意点
<p>1 日本の位置が記されていない世界白地図をもとに、自分の考えをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あれっ。日本がない。 ・きっとこの辺りではないか。 ・私たちの日本の範囲（領土）ってどこまでなのか。 <p>【課題】世界の中の日本の位置と領土はどのあたりにあるのだろうか。</p> <p>2 白地図に日本（含む領海）を描き込み、交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なかなか難しい。どこにどうやって描いたら・・・。 ・中国や韓国がここにあるから、この辺りに位置しているだろう。 ・領海はこの辺りか・・・。 <p>3 公海（排他的経済水域）を描き加えて、考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・200海里なんて初めて知ったよ。 ・日本は、ロシアや大韓民国、台湾などの国に近いんだ。 ・小さな島も含んで“日本”なんだ。 ・公海を含めると世界で6番目なんて。日本って広いんだ。 <p>4 東西南北、それぞれの端の位置とその現状について理解し、様々な領土（国境）問題に対する関心を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちの日本は、北方領土や沖ノ鳥島等について、今も他の国と話し合っているんだ。 ・日本の200海里を守るために努力や工夫をしている人たちがいる。 ・日本の領土については、これからも考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本が記されていない白地図を提示し、位置や領土に対する課題化を図る。 【分布図センター所蔵地図等】 ・描き込む前に、領海（沿岸～12海里・領土と同じ扱い）の意味を押さえ、沿岸にそって大まかな範囲も白地図に書き込めるように指導する。 ・停滞が生じている子どもには、位置や形を捉えることができるように世界地図等を提示する。 【分布図センター所蔵地図等】 ・自分なりに考えて、日本の位置を正しく描いている子のよさを広げる。 ・公海の意味を押さえ、それを示した地図をもとに描き加えることができるようにする。 【分布図センター所蔵地図等】 ・特に北方領土や沖の島についての現状を具体的にわかりやすく紹介して、今後の学習意欲につなげる。

- 6 評価規準（本時の重点 資料活用の技能・表現）

日本の位置や領土について、白地図に描き表すことができたか。
 （大陸から極端に離れていない・南北に長い・大まかに北海道、本州、四国、九州等の別がある 等）

実践例③ 小5 授業の様子



「モンゴルの南だから、ここは『中国』。」



「日本を描くとき、どんなことに
気をつけましたか。」



「こんなところにも、日本の島があるの！」



「一枚目に比べて、『日本の大きさ』が
よくわかってきたね。」



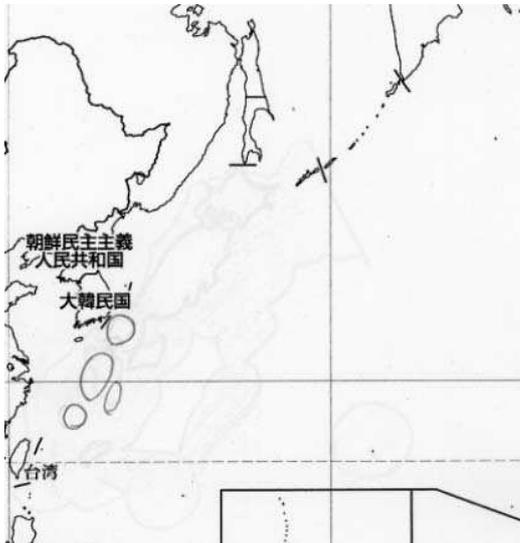
「この島（沖の鳥島）を、日本はこのよう
に大切にしているのだよ。」



「ここがないと、それだけ日本の土地が
なくなるということだから…。」

実践例③ 個の変容 (例：5年Kさん)

◇授業当初の実態 (一枚目の白地図から)



- ・北海道・本州・四国・九州のまとまりに対する認識がある。
- ・他国に比べた大きさについてもある程度捉えることができている。
- ・形や位置関係についてさらに理解し、表現できるとよい。

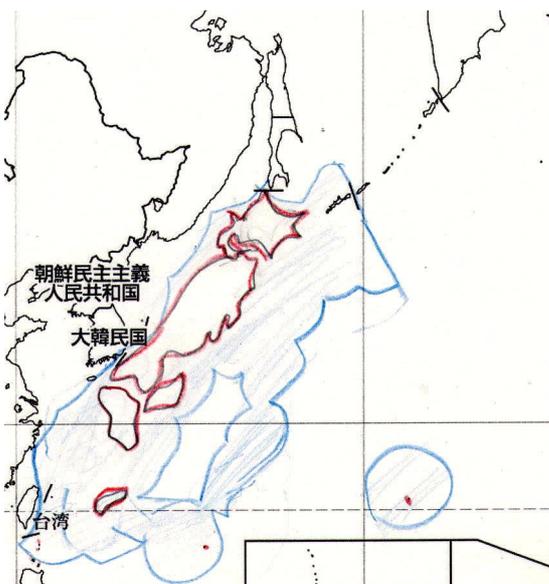
◇授業でみられた姿 (“気を付けたこと” に対する話し合いの中で)

Kさん：ロシアや中国に比べて日本は小さいから、それに気を付けて描きました。

他の子どもからの発言： ・樺太の南に北海道
 ・北東から南西へ細長い
 ・沖縄もある 等

※教師の指導： ・韓国の南に九州
 ・領土、領海、公海について

◇追究後の実態 (二枚目の白地図から)



・話し合いを通して、さらに位置関係について理解し、北海道や九州などを意識して描き表すことができるようになった。

・領海や公海についても、東端や南端まで意識して描き表すことができるようになった。

※さらに‘各都道府県の位置’を意識した日本を描くことができるとよい。

実践例④ 中 1 社会科学学習指導案（略案）

場 所：笠松町立笠松中学校 1年生各学級（5クラス）
授業者：世界分布図センター 松尾 國雄

1 小单元名「身近な地域」（全 8 時間）

2 単元のねらい（つきたい力）

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
身近な地域を対象にして、地理的な追究の面白さを実感できる体験的、作業的な学習等を通して、生活している土地に対する理解と関心を深め、その発展に努力しようとする。	身近な地域を対象にして、地理的な追究の面白さを体験的、作業的な学習等を通して、その地域的特色や事象間の関連等について深く考え、適切に判断する。	地図と現地との対応関係を学んだり、地図から関心のある地理的事象を発見したり、地図から地域的特色をとらえたりするなどの活動を通して、読図や作図に関する技能を高め、地理的なまとめ方や発表の方法を身に付ける。	身近な地域における諸事象をもとにして、市町村規模の地域的特色を捉える視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法等を理解している。

3 本時の位置 2 / 8

4 本時のねらい

舟伏山の“等高線”は、高低差等の複雑な地形を表していることが分かり、その断面図を描いたり、地形的な特徴を読み取ったりすることができる。

5 本時の展開

学習活動	指導上の留意点
<p>1 地形図から読み取れることを交流する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長良川や高さ270<small>㍎</small>ほどの山がある。 ・山の南側に田や畑、集落がある。 ・山の北側を切り開いて住宅地にしたところがある。 <p>2 舟伏山だけでなく地形図内の〇〇山や△△山を表すのに、記号ではなく“線”が使われている事実について確かめ、課題意識をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他のように記号で表さないのは… ・山の高さやその範囲を表すためではないか。 ・10<small>㍎</small>ごとに細い線50<small>㍎</small>ごとに太い線で表されている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【課題】舟伏山の“等高線”が表しているのは、どんな地形だろうか。</p> </div> <p>3 地形図や資料（「等高線のきまり」）をもとにして考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東西に広がっている山だ。 ・山頂の高さは、262・270<small>㍎</small>だ。 ・谷や尾根の様子が分かるよ。北と南側がなだらかだ。 <p>4 断面図に表し、〇〇山の地形的な特徴を読み深め、確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100<small>㍎</small>付近から、急な斜面が多い。 ・二つのコブができていような山の断面だ。 ・だから、舟伏山というのか。この山の名前は地形からつけられたんだ。 ・複雑な山の地形だからこそ、地図にするためには等高線が必要だ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地形図の東西南北、縮尺、地図記号等についてつまずきがみられた場合は、その内容について押さえる。 【分布図センター所蔵資料】 ・等高線を使用しない例を示し、課題化を図る。 ・「等高線のきまり」について、縮尺・間隔、輪をキーワードにして具体的に押さえる。 ・読図においてつまずきが見られる生徒に対しては、立体図等を示し、尾根と谷・高低の違い等を具体的に捉えることができるようにする。 ・等高線をもとに断面図を作成する手順を位置や高さに着目して描くことができるように指導する。 ・読み深めたことを衛星写真等で確かめ、“等高線のよさ”を実感できるように配慮する。 【分布図センター所蔵資料】

6 評価規準（本時の重点 資料活用の技能・表現）

等高線をもとにして断面図を描いたり、地形的な特徴を読み取ることができる。

実践例④ 中1 授業の様子



「この地形図から読みとれることは何か。」



「間隔が狭いと？」「斜面は急！」



「北はおだやかで、南のほうは急…」



「この山は三つのかたまりがつながっている。」



地形から、“舟伏山”の名前の由来は分かりましたか。



※終末に使用した立体地図

実践例④ 中 1 個の変容 (例: 1年 Yさん)

◇授業当初の実態

T: “地図記号” で表さずに “線” で表すよさは何かな。

Y: 山の「高さ」とか、「形」がよく分かるためではないか。

• 二つの視点をもって
いる。さらに視点を
増やしたり内容を深
めたりしたい。

◇授業でみられた姿

- 三つのでこぼこがありそう。(山頂の数値から)
 - 北側の方が南側に比べて穏やかだ。(等高線の間隔から)
- ※教師の指導【断面図と実際の山の形が変わらないことに気づかせる指導】
(終末) 山の写真提示 T: 等高線で表す必要があるのはなぜかな。
• うん。たくさんのことが分かるから。



社会科学習プリント『身近な地域』

☆ “地形図” をよんでみると…

- 川がある
- 橋がある
- 等高線
- 畑がある
- 果樹園がある 長良川-丸
- 神社
- 寺院
- 交番
- 住宅地
- 田
- 針葉樹
- 病院
- 郵便局
- 線路
- くわ畑
- 山
- 地形図
- 形・高さ・広さ・頂上・傾斜

☆ 今日の学習で学んだことはこれだ!

山を山と表わさず、等高線を使う理由がよく分かった。等高線は、そこから、山の断面図も読みとれるし、形・高さ・広さ・頂上・傾斜など、いろんなことが読みとれる。それを立体の図にもできるという、すごく便利なものだと分かった。

• 等高線に対する見方・考え方を広げたり、深めたりすることができた。
※本時学習したことが、他の事象(山の地形)にあてはめても同じことがいえることを実感させたい。